

## スペインにある3つのカフェ文化を知ろう

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。今日は、物事を深く考えて議論するにはどのようにしたらよいかということ、少し面白い観点からお話したいと思います。学校では、相手の意見を聞きながら自分の意見を発表する、お互いの考えを知って自分の考えを述べるといったことを日本もやっているようですが、まだまだ足りないようですね。

他の国でも色々な試みがあります。それが日常生活にまで入っている国に、スペインがあります。今日はスペインの「カフェの文化」についてお話します。私は、日本ホームセンター研究所で、アイダレイジ先生について10数年間勉強させていただいています。これから先、日本でもホームセンターなどに「カフェの文化」を取り入れるというアイダ先生のお話に感銘を受けました。

そこで、私がスペインに行ったときの話をさせていただきたいと思います。スペインには、3つの種類のカフェがあります。一つは、バルとって、家の近くや職場の近く、バスターミナルの近くなどにあり人々が生活の場面場面でちょっと一服したいというときに利用する所です。bar と書きますが、スペイン語はバルといいます。ここは、コーヒーを飲んで、少しおつまみを食べる場所です。ここに来る顔ぶれはだいたい決まっています。そこで働く人も、このお客はこの位の濃さのコーヒーが好きであるというところまで知っているほどの、とてもアットホームな所と言えます。集まる人々は、共通の話題、たとえばスペインはサッカーが非常に盛んなので、今日はどのチームが勝った、負けたなどの話で盛り上がります。スポーツはもちろん、政治、経済、さまざまな話題を持ち寄り、コーヒーを片手に話す社交の場となっています。

二つ目は、カフェテラスといいまして、軽食もとれる場所です。こちらは日本のカフェテラスと変わらず、人間関係も希薄です。

三つ目は、カフェといいまして、オーナーの趣味を前面に出しているお店です。例えば、詩の朗読をしたり、哲学を語ったりと、カフェによりテーマが違います。スペインには、このようなカフェ文化がありますというお話を、今日はさせていただきました。